

2021 12/28・2022 1/11合併号

No.2153・2154

毎月第2・第4火曜日発行

# 政経 かながわ

一般社団法人  
— 神奈川政経懇話会 —



2022年の干支「寅<sup>えと</sup>」にちなんだ干支だるまが出番を待っている。コロナ禍からの回復を願い、招き猫のような手を付けたのが特徴。



## contents

視点点描	3
可能性を示す百貨店	
講演録	4
シンポジウム「2022年の動向を読む」	
パネリスト 共同通信社	
政治部長	山根 士郎
経済部長	宮野 健男
外信部長	有田 司
コーディネーター	
神奈川新聞社論説主幹	鈴木 達也
2022年内政展望	10
地方活性化の切り札になるか	
デジタル田園都市国家構想	
デモクラシーの現場から	14
負の連鎖を断ち切れるか、	
「聞く力」に注目	
くらし2022	16
失業止めるも課題多く	
雇調金、5兆円超	
経済双眼鏡	18
「改ざん」が意味するもの	
官僚の「忖度病」一掃を	
風人來人	19
「ビッグボスと呼んで」	
アジアの風	20
娘の副大統領選出馬に	
ドゥテルテ氏ふてくされ	
NNAアジア経済レポート	21
神奈川景気データファイル	22
神奈川景気データファイル	23

### 事務局だより

◇2022年1月定例講演会  
1月24日(月)午後1時30分  
～3時  
ロイヤルホールヨコハマ5階  
「リビエラの間」  
講師は元大相撲立行司の第  
36代木村庄之助氏  
演題は「大相撲と行司の世界  
～行司最高位・木村庄之助が  
語る」

※定例講演会は、新型コロナ  
感染拡大の状況によっては中  
止または延期する場合があります。

【お知らせ】神奈川政経懇話会ではホームページと会報「政経かながわ」に会員コーナーを設け、新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

# 視点 点描



## 可能性を示す百貨店

会社帰りに所用で横浜市内の実家へ顔を出すと、そのたび、「孫に食べさせて」と、京急百貨店（同市港南区）で買ってきた季節の果物をいろいろ持たされる。

1個ずつ包装された高級果物は、近所のスーパーで普段買うよりずっと高そうだが、子どもには値段など関係ない。「おいしい」と瞬く間になくなってしまふ。

「百貨店ではなく、スーパーではないから。質より量で」と伝えても、行けば必ず、京急百貨店の大きな袋。祖父母にとつて「百貨店で買う」こと自体が、孫への愛情の表れなのだろう。

かつては、休日に家族で電車に乗ってターミナル駅の百貨店へ行き、買い物をして特別食堂で食事し。しかし今、家族連れの多くは

休日、車に乗って郊外の大型ショッピングセンターへ向かう。衣料品はユニクロに代表されるファストファッション、家具や家電は大型量販店があり、ネット通販も当たり前になった。小売・流通業界の変革は、消費者の生活様式を大きく変えた。

小売りの花形だった百貨店業界が冬の時代といわれて久しい。新型コロナウイルス禍の影響もあり、東京商工リサーチによると、2020年度は全国の百貨店の約8割が赤字だったという。一方で、ある大型ショッピングセンターの関係者は「高級ブランド、デパ地下、物産展など百貨店ならではの売り場を支える人材、接客レベルはうらやましい」と語る。

地域密着の「生活者本位制百貨店」を掲げる京急百貨店が21年、開店25周年を迎えた。20年度の売上高は309億3千万円。店舗別

ではだいたい全国50位前後で、地方の独立系百貨店と同規模ぐらい。地方の百貨店は県庁所在地に立地するケースが多く、上大岡は京急線の主要ターミナル駅とはいえ、都心部から離れた郊外型の百貨店としては底堅い営業を続けているといえる（21年2月に閉店したそごう川口店（埼玉県）の売上高は約159億円＝19年2月期）。

神奈川新聞の連載「軌跡 京急百貨店25周年」（21年12月9～11日）に詳しいが、京急百貨店が堅調なのは、人材や接客の質の高さという百貨店の「らしさ」はそのままに、他方、百貨店という固定観念にとらわれず、消費者の生活とニーズの変化を先取りした柔軟な取り組みの成果ではないか。閉店が相次ぐ郊外型の百貨店だが、まだ可能性はあると感じている。

（神奈川新聞社経済部長

吉田 勝行）